

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	中小企業論 (Small and Medium-sized Enterprise)					担当教員	高橋 哲郎 (タカハシ テツロウ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	協同学習型 AL
	2037-2-33-106	専門科目	選択	2単位	3年次	後期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	協同学習型 AL
	2437-2-33-046	専門科目	選択	2単位	3年次	後期		

① 授業のねらい・概要						
我が国経済の構造変化に伴い、地域経済の担い手としての中小企業が抱える問題と役割も変化している。地域経済と中小企業が直面している状況を理解し、課題解決策を考えることを目的とする。 新潟県の経済と中小企業への理解を深めることを目指す。グループ学習などアクティブラーニングを取り入れる。 中小企業は企業数で日本の産業全体の99%以上、従業員数で66%という高いシェアを占めており、日本経済や産業を語る上で欠かせない存在である。ところが、中小企業の多くは資金不足と人材不足などの中小企業問題を抱えている。そして、その背景には規模の不経済の問題が隠れているが、その解説と対策を講義していく。また、日本の中小企業が日本経済の発展にどのように貢献してきたか、グローバリゼーションは日本の中小企業にどのような影響を与えているか、どのようにしていくべきかについて講義と議論を並行しながら進行していきたい。授業の水準は基礎応用の水準である。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
知識定着を図るため、プレゼンするための資料収集が重要となる。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
「経営学」で学んだ知識が土台となる。「経営学」を履修済みであること。						
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。						
テキスト指定なし。授業開始時にインターネット上の教材フォルダから閲覧する方法を指導する。						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
安田武彦編著『中小企業論—組織のライフサイクルとエコシステム—』同友館						
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
理解度を確認しながら、授業を進めていく。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 中小企業に関する基本的な知識に関して説明することができる。 (2) 中小企業の特徴分析について、3つ以上説明することができる。 (3) 「地域活性化の担い手」となった中小企業の事例を3つ以上説明することができる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	中小企業に関する基礎知識	「中小企業に関する基礎知識」について具体的な事例を挙げて、経済学の概念を使いながらと自分の言葉で他者に明確に説明できる。	「中小企業に関する基礎知識」について経済学の概念を使いながらと自分の言葉で他者に比較的わかりやすく説明できる。	「中小企業に関する基礎知識」について教科書や資料等を見ながら説明できる。	「中小企業に関する基礎知識」について資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる。	説明に不正確な部分が多く、全体的文脈が説明できない。
(2)	中小企業の特徴分析	中小企業の特徴について具体的な事例を挙げて、因果関係に基づいて自分の言葉で他者に明確に説明できる。	中小企業の特徴について具体的な事例を挙げて説明できる。	中小企業の特徴について教科書や資料等を見ながら説明できる。	中小企業の特徴について資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる。	説明に不正確な部分が多く、全体的文脈が説明できない。

(3)	地域活性化の担い手	地域活性化の担い手としての中小企業について具体的な事例を挙げて、因果関係に基づいて自分の言葉で他者に明確に説明できる。	地域活性化の担い手としての中小企業について具体的な事例を挙げて説明できる。	地域活性化の担い手としての中小企業について教科書や資料等を見ながら説明できる。	地域活性化の担い手としての中小企業について教科書や資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる。	説明に不正確な部分が多く、全体的文脈が説明できない。
-----	-----------	---	---------------------------------------	---	---	----------------------------

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法

学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	15%	25%	10%			100%
(1) 中小企業に関する基礎知識	20%	5%	5%				30%
(2) 中小企業に関する資料収集・分析	20%	5%	10%	5%			40%
(3) プレゼン資料作成・発表	10%	5%	10%	5%			30%
評価項目「その他」詳細							
フィードバックの方法	毎回の授業の冒頭に前回講義の質問内容について解説する。						

⑪ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	「中小企業論」シラバスの説明。 「C-Learning」の登録、使用方法説明。	シラバスを読み不明なところあれば講義時に質問する。	120分
2	地域資源とはなにかを学ぶ。 地域ブランド、地域おこしについて。 地域「難題」について	C-Learning 保存教材・資料（地域資源、地域ブランド、地域「難題」）を予習する。 地域資源とはなにかを理解する。 地域活性化に必要なことは何かを考える。	120分
3	近年の技術革新（IoT、ビッグデータ、AI など）による地域資源の活用について考える。	C-Learning 保存教材・資料（近年の技術革新関連資料）を予習する。 IoT、ビッグデータ、AI などのキーワードを理解し、地域資源に活用する事例を調べる。	120分
4	技術革新（IoT、ビッグデータ、AI など）による地域資源の活用事例を調べる。 グループ分けを行い、チーム課題を設定する。アイスブレイク。	新潟県の地域資源を調べる。 プレゼン資料の作成。	120分
5	技術革新（IoT、ビッグデータ、AI など）による地域資源の活用を考える。 グループで地域資源を調べる。	新潟県の「地域難題」は何かを調べ、考える。 プレゼン資料の作成。	120分
6	調べた内容をプレゼンする。 質疑応答。	プレゼン資料の作成。	120分
7	調べた内容をプレゼンする。 質疑応答。	プレゼン資料の作成。	120分
8	調べた内容をプレゼンする。 質疑応答。	プレゼン資料の作成。 プレゼンのフィードバック。	120分
9	新潟県の地域資源について	C-Learning 保存教材・資料（新潟の地域資源）を予習する。講義内容の復習。	120分
10	新潟県製造業の強みと弱みについて IoT、ビッグデータ、AI などの新潟県内の取り組み状況を調べる。	C-Learning 保存教材・資料（新潟県製造業）を予習する。講義内容の復習。	120分
11	新潟県経済と中小企業についてグループで調べる。 IoT、ビッグデータ、AI などの新潟県内の取り組み状況を調べる。	C-Learning 保存教材・資料（新潟県経済と中小企業関連資料）を予習する。	120分
12	新潟県経済と中小企業についてグループで調べる。 IoT、ビッグデータ、AI などの富山県内の取り組み状況を調べる。	プレゼン資料の作成。	120分
13	ゲスト講義（実務家）	講義の復習（地元企業の経営者・実務家による講演）	120分
14	ゲスト講義（企業経営者）	講義の復習（地元企業の経営者・実務家による講演）	120分
15	これまでの学習内容の整理。 期末試験について。	講義内容の整理、復習。 期末試験問題対策	120分

⑫ アクティブラーニングについて
講義前半で学習した基礎知識を土台にして、自ら調べた内容を盛り込みプレゼン資料を作成し、発表してもらおう（知識定着・確認型AL）。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性